



TITLE:

富永茂樹教授 略歴・著作目録

AUTHOR(S):

---

CITATION:

富永茂樹教授 略歴・著作目録. 人文學報 2016, 109: 201-208

ISSUE DATE:

2016-07-30

URL:

<https://doi.org/10.14989/216254>

RIGHT:

## 富永茂樹教授 略歴・著作目録

### I 略 歴

年	月	
1968	・ 3	滋賀県立膳所高等学校卒業
1969	・ 4	京都大学教育学部入学
1973	・ 3	同 卒業
1973	・ 4	京都大学大学院文学研究科修士課程入学
1975	・ 3	同 修了
1975	・ 4	同 博士課程進学
1976	・ 10	パリ第一大学第三期博士課程登録
1980	・ 3	京都大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学
1980	・ 4	京都大学研修員（日本学術振興会・特別研究員）
1981	・ 4	長崎大学講師（教養部）
1984	・ 4	京都大学助教授（人文科学研究所）
1985	・ 4	京都大学大学院文学研究科・授業担当
1991	・ 6	応用認識論研究センター（パリ）特別研究員
2000	・ 4	京都大学教授
2004	・ 4	社会科学高等研究院（パリ）招聘教授
2005	・ 3	博士（文学，京都大学）
2015	・ 3	京都大学退職（同・名誉教授）

### II 著作目録

#### A 著 書

1	健康論序説	エッセ・スタンダード石油 再刊（河出書房新社）	1973 1977
2	アンデス高地都市（共著）	刀水書房	1981
3	自尊と懷疑——文芸社会学をめざして（共編）	筑摩書房	1984
4	学問の現在（共編）	駸々堂 新装版	1989 1996
5	都市の憂鬱——感情の社会学のために	新曜社	1996
6	ミュージアムと出会う	淡交社	1998

7	哲学を読む（共編）	人文書院	2000
8	資料 権利の宣言——1789（編著）	京都大学人文科学研究所	2001
9	文化社会学への招待（共編）	世界思想社	2002
10	理性の使用——ひとはいかにして市民となるのか	みすず書房	2005
11	転回点を求めて——1960年代の研究（編著）	世界思想社	2009
12	トクヴィル——現代へのまなざし	岩波書店	2010
13	啓蒙の運命（編著）	名古屋大学出版会	2011

## B 訳 書

1	資料 フランス初期社会主義（共訳）	平凡社	1979
2	ジラール 身代りの山羊（共訳）	法政大学出版局	1985
3	エー 無意識・V（共訳）	金剛出版社	1986
4	資料 フランス革命（共訳）	岩波書店	1989
5	デュムシュール/デュピュイ 物の地獄 ——ルネ・ジラールと経済の論理（共訳）	法政大学出版局	1990
6	フュレ/オズーフ フランス革命事典（共訳）	みすず書房 再刊（みすずライブラリー版）	1995 1998-99
7	ラールス社会学事典（共訳）	弘文堂	1997
8	ゴーシェ 代表制の政治哲学（共訳）	みすず書房	2000
9	ピエール・ロザンヴァロン 「政治的なものの近代・現代史」	『みすず』499・500号	2002

## C 論 文

1	都市という病理	『展望』197号	1975
2	都市空間のための見取り図	『展望』212号	1976
3	オスマンとパリ改造成業	河野健二編『フランス・ブルジョワ社会の成立』岩波書店	1977
4	トクヴィルにおけるアソシアシオンの概念	『ソシオロジ』74号	1979
5	情熱と憂鬱	『叢書・文化の現在6・生と死の弁証法』岩波書店	1980
6	憂鬱の解剖——《世紀病》における社会心理	『現代社会学』16号	1981
7	ジョルジュ・バタイユあるいは社会学の沸騰	河野健二編『ヨーロッパ——1930年代』岩波書店	1981
8	風土、習俗、一般精神 ——モンテスキューと比較社会学の展開	樋口謹一編『モンテスキュー研究』白水社	1984
9	後悔と近代世界	作田・富永編『自尊と懷疑——文芸社会学をめざして』筑摩書房	1984
10	美術館の誕生	井上俊編『地域文化の社会学』世界思想社	1984
11	統計と衛生——社会調査史試論	阪上孝編『1848 国家装置と民衆』ミネルヴァ書房	1985
12	文化のなかのメランコリー	『京都大学学生懇話室紀要』15号	1986
13	催眠と模倣——群集論の地平で	『思想』750号	1986

14	廃墟の一八世紀 ——あるいは甘美な憂鬱の夢について	樋口謹一編『空間の世紀』 筑摩書房	1988
15	La Révolution française et la crise sacrificielle : pour une sociologie religieuse du politique	<i>Zinbun</i> , no. 24	1989
16	知識と社会秩序 ——フランス革命期の一技術将校の肖像	『岩波講座・転換期における 人間7・技術とは』岩波書店	1990
17	グレゴワールの狡智	『省察』3号	1991
18	フランスの家庭における環境教育	加藤秀俊編『日本の環境教育』ぎょうせい	1991
19	徳と効用のあいだ ——フランス革命期における科学と芸術	『人文学報』70号	1992
20	立法者の死 —— 政治の宗教社会学のために	『社会学評論』175号	1993
21	L'impossible groupement intermédiaire : été-automne 1791	<i>Zinbun</i> , no. 28	1994
22	ソロモンの館へようこそ ——社会装置としての学問をめぐる	山田・阪上編『人文学のア ナトミー』岩波書店	1995
23	北欧で見たこと、南欧について聞いたこと	西川・松宮編『「米欧回覧実 記」を読む』法律文化社	1995
24	Voice and Silence in the Public Space : the French Revolution and the Problem of the Secondary Group	<i>Cahier d'épistémologie</i> , no. 9607 reprinted in M. Henaff & T. Strong ed., <i>Public Space and Democracy</i> , University of Minnesota Press,	1996 2000
25	バステューユからピセートルへ ——ひとはどのようにして「市民」となるのか	阪上孝編『統治技法の近代』 同文館出版	1997
26	Conserver et exposer : la naissance du musée	<i>Annuaire de la Société franco- japonaise de sociologie</i> , no. 9	1997
27	都市生活と文学 —— 織田作之助の大阪	上田篤編『大阪の研究 —— もう一つの都市文化』デコ	1998
28	精神療法の考古学	『精神医学史研究』1巻	1998
29	Conversation and Debate : Transformation of Sociability in Late Eighteenth-Century France	<i>Zinbun</i> , no. 32	1998
30	1791年の中間集団 —— 公共性の社会学のために	『社会学評論』200号	2000
31	Autour de la liberté de la presse	<i>Zinbun</i> , no. 34	2000
32	会話と議論 —— 18世紀フランスにおける社交の衰 退	前川和也編『コミュニケーションの社会史』ミネルヴァ 書房	2001
33	ラントナス、あるいは自由と健康の逆説について	『環』27号	2001
34	革命記念 1989年から1790年へ	三浦信孝編『普遍性か差異 か 共和主義の臨界、フラ ンス』藤原書店	2001
35	記憶の重層 ——パトリック・モディアノ「新婚旅行」その他	亀山・富永・清水編『文学 から社会学へ』世界思想社	2002
36	魅力ある都市の条件 —— 《環境図式》の観点から	『国際シンポジウム報告書・ 新都市の時代』財団法人千 里文化財団	2002
37	フランス革命と社会学	『社会学雑誌』20号	2003
38	芸術から社会学への架橋	満田久義編『現代社会学へ の誘い』朝日新聞社	2003

39	中間集団の声と沈黙 —— 1791 年夏-秋	『人文学報』 88 号	2003
40	京都の文化力を考える	『都市研究・京都』 15 号	2003
41	《マクルーハン》とはなんであったか —— 1960 年代と知の展開	『科学研究費成果報告書・1960 年代の研究』	2005
42	De Brissot à Tocqueville : Amérique, la Révolution et la démocratie	<i>La France et les États-Unis, deux modèles de démocratie</i> , Maison Franco-Japonaise de Tokyo	2005
43	La machine à mémoriser : les musées et le patri-moine au début de l'âge moderne	<i>Symposium : Savants &amp; bâtisseurs</i> , Institut Franco-Japonais de Kyoto	2006
44	憂鬱という淵源 —— トクヴィルと近代社会学の発見	『みすず』 546 号	2006
45	トクヴィルと憂鬱 —— 精神医学と人文科学のひとつの「交差」	『精神医学史研究』 11 巻 1 号	2007
46	メランコリーの廃棄 —— エスキロルを読む	坂口・岡崎・池田ほか編『精神医学の方位』 中山書店	2007
47	ブリッソーからトクヴィルへ —— アメリカ, 革命, 民主政	松本・三浦・宇野編『トクヴィルとデモクラシーの現在』 東京大学出版会	2009
48	国民の困難 —— 啓蒙, 宗教, コミュニケーション	大澤・姜編『ナショナリズム論・入門』 有斐閣	2009
49	知識と権力・フーコー「死にたいする権力と生にたいする権力」	井上・伊藤編『社会学ベシックス・3・文化の社会学』 世界思想社	2009
50	デモクラシーの逆説・トクヴィル『アメリカのデモクラシー』	井上・伊藤編『社会学ベシックス・9・政治・権力・公共性』 世界思想社	2009
51	Autour de deux types d'égalité : quelques conditions d'un débat multiculturel	<i>Nationalisme et multiculturalisme en Asie</i> , s.l. d. de Paul Dumouchel, Paris, Harmattan	2010
52	コンドルセ vs トクヴィル —— 無限の完成可能性の概念をめぐる	富永編『啓蒙の運命』 名古屋大学出版会	2011
53	公衆の幻影 —— リップマンと民主政への疑念	山室・岡田・小関・藤原編『現代の起点 第一次大戦・4・遺産』 岩波書店	2014
<b>D エッセイ・書評その他</b>			
1	書物の近代	Energy 10 巻 3 号	1973
2	都市研究における一視点	『ソシオロジ』 20 巻 1 号	1975
3	書評・小関三平『文化批判の社会学』	『ソシオロジ』 20 巻 3 号	1975
4	不安へのまなざし	『中央公論』 1979 年 9 月号	1979・9
5	書評・中谷猛『フランス市民社会の政治思想』	『西洋史学』 122 号	1981
6	書評・スーザン・ソントグ『隠喩としての病い』	『中央公論』 1982 年 7 月号	1982・7
7	「都市」から思考をはじめるために	『ブック・ガイド・ブック・1982』 河出書房新社	1982
8	美術館の時代	『建築と社会』 64 巻 7 号	1983
9	書評・桜井哲夫『知識人の運命』	『朝日ジャーナル』 25 巻 16 号	1983
10	書評・ルネ・ジラル『世の初めから隠されていること』	『週刊読書人』	1984・7・9

11	小説から社会学へ	『ちくま』162号	1984
12	Who's afraid of the charisma?	『ヘルメス』1985年3号	1985
13	Phygiologia Subiunctiva	『人文』32号	1986
14	自己保存装置としての日記	Graphication 212号	1986
15	狂気の閉じこめと監視	作田・井上編『命題コレクション社会学』筑摩書房	1986
16	自由と平等の非両立	(同前)	(同前)
17	書評・飯島伸子『髪社会学史』	『社会学評論』39巻1号	1988
18	シンボルとイメージの革命	河野健二『フランス革命200年』日本放送出版協会	1989
19	廃墟のある風景	横山・藤井編『安定期社会における人生の諸相』京都ゼミナールハウス	1989
20	書評・樋口陽一『自由と国家』	熊本日日新聞他	1989・12・25
21	群集という名の無人地帯	is 49号	1990
22	制度と生命	『ソシオロジ』35巻2号	1990
23	革命の変容——総裁政府期の教育と社会	『週刊朝日百科・世界の歴史』97号	1990
24	ある暦の運命	『淡交』1990年12月号	1990・12
25	若者意識調査の解釈	C・D・I『京都への提言Ⅱ——京都と若者』	1990
26	書評・餐場孝雄『日本の世紀末』	『週刊ポスト』	1991・3・8
27	小特集『身体と社会』はじめに	『ソシオロジ』36巻1号	1991
28	道具・制度の発達と人間の対応	C・D・I『株仲間の提言——時代の気分』	1991
29	書評・厚東洋輔『社会認識と想像力』	『ソシオロジ』37巻2号	1992
30	専門職としての文化行政職員	C・D・I『文化行政・再考』	1992
31	エゴイズム、群集、啓蒙、啓蒙主義、契約、契約有機体、コンドルセ、自然権、自然主義、自然状態/社会状態、自然法、社会契約、社会契約説、社会静学/社会動学、集団感情、ジラルル、スケープ・ゴート、デュヴィニョー、トクヴィル、閉じた社会/開いた社会、人間機械論、人間性、フュステル・ド・クーランジュ、フーリエ、ブルードン、モスコヴィシ、ルフェーヴル	『新社会学事典』有斐閣	1993
32	ある街路の話	『人文』39号	1993
33	ミシェル・フーコーあるいは遊びの欠如について	『世界思想』20号	1993
34	ユーロ・ディズニランド	井上俊編『現代文化を学ぶ人のために』世界思想社	1993
35	相互理解という《幻想》	C・D・I『コミュニケーション・システムのリデザイン』	1993
36	マクドナルド	竹内・西川編『比較文化キーワード・2』サイマル出版会	1994
37	パリの小学校	『創造する市民』39号	1994
38	片集の時代	『京都新聞』	1994・3・11
39	新人間機械論	『京都新聞』	1994・5・20

人 文 学 報

40	涙の復活	『京都新聞』	1994・8・5
41	ピジン・ジャパニーズ	『京都新聞』	1994・10・7
42	反復強迫	『京都新聞』	1994・12・9
43	書評・小岸昭『マラーノの系譜』	『GQ』23号	1994
44	1978年、ニースにて	『創造する市民』49号	1996
45	解題・河野健二『革命と近代ヨーロッパ』	岩波書店	1996
46	解題・河野健二『現代史の展開』	岩波書店	1996
47	知識社会学	AERA Mook 12 『社会学がわかる』	1996
48	書評に答えて	『ソシオロジ』42巻1号	1997
49	アメリカ、『アメリカの民主主義について』、群集、 トクヴィル	『岩波哲学思想事典』 岩波書店	1998
50	『慾望の現象学』、『暴力と聖なるもの』、『都市の憂鬱』	『社会学文献事典』弘文堂	1998
51	サン=ジュスト、シエース、ラ・メトリエ	『フランス哲学思想事典』 弘文堂	1999
52	第三身分、フランス革命、バリコミュン	猪口孝他編『政治学事典』 弘文堂	2000
53	解説・パトリス・ゲニフェー「ジャコバン主義と恐怖政治」	『みすず』477号	2000・12
54	発刊にあたって	<i>chronicle</i> '60s, no. 00	2001
55	書評・松岡完『ベトナム戦争』	<i>chronicle</i> '60s, no. 01	2001
56	群集	『事典 哲学の木』講談社	2002
57	書評・エルロイ『アメリカン・デス・トリップ』	<i>chronicle</i> '60s, no. 03	2002
58	Year no. 14 梅棹忠夫『知的生産の技術』刊行	<i>chronicle</i> '60s, no. 04	2002
59	書評・矢代梓『年表で読む二十世紀思想史』	<i>chronicle</i> '60s, no. 06	2002
60	Year no. 20 「三種の神器」なる言葉の初出	<i>chronicle</i> '60s, no. 08	2003
61	Year no. 29 国民皆保険の成立	<i>chronicle</i> '60s, no. 10	2004
62	Year no. 30 シンポジウム「批評の言語と人間の科学」がジョンズ・ホプキンス大学で開催	<i>chronicle</i> '60s, no. 11	2004
63	精神医学史とミシェル・フーコー	『精神医学史研究』8巻2号	2004
64	書評・安藤隆穂編『フランス革命と公共性』	『社会経済史学』70巻4号	2004
65	京都芸術センター五年のあゆみ	『京都芸術センター5周年記念誌』京都芸術センター	2005・3
66	無題 [はじめて伊砂先生のアトリエに…]	コンサート=展覧会『音と私たちの出会い——伊砂利彦とドビュッシーをめぐって』 チラシ、京都芸術センター	2006
67	2005年読書アンケート	『みすず』535号	2006・1
68	第9回精神医学史学会印象記	『精神医学史研究』10巻1号	2006
69	2006年読書アンケート	『みすず』546号	2007・1
70	編集後記	『精神医学史研究』11巻2号	2007
71	2007年読書アンケート	『みすず』557号	2008・1
72	腕の振りかたについて	『潮』2008年3月号	2008・3
73	事業紹介・明倫茶会	『藝文京』107号	2008
74	2008年読書アンケート	『みすず』568号	2009・1

富永茂樹教授 略歴・著作目録

75	星に願いを	『藝文京』109号	2009
76	2009年読書アンケート	『みすず』579号	2010・1
77	さらなる彼方へ	『明倫アート』118号	2010・2
78	挨拶	『京都芸術センター10周年記念誌』, 京都芸術センター	2010
79	無題 [なんとも豪華で贅沢な…]	演劇「式典」チラシ, 京都芸術センター	2010
80	ひと, まち, 文化	『地方議会人』40巻10号	2010
81	館長コラム (1) ふたりの女性歌手	『明倫アート』121号	2010・5
82	館長コラム (2) 私の知らない東京	『明倫アート』124号	2010・8
83	館長コラム (3) ナントの雨	『明倫アート』127号	2010・11
84	2010年読書アンケート	『みすず』590号	2011・1
85	館長コラム (4) ある都市のかたち	『明倫アート』130号	2011・2
86	館長コラム (5) 言葉の力	『明倫アート』133号	2011・5
87	私が会えなかった人物	『出版ダイジェスト』	2011・6・20
88	館長コラム (6) 新矛盾論	『明倫アート』135号	2011・7
89	館長コラム (7) ヘルシンキ——25年ぶりの	『明倫アート』139号	2011・11
90	2011年読書アンケート	『みすず』601号	2012・1
91	館長コラム (8) 富士山, 空虚の中心としての	『明倫アート』142号	2012・2
92	館長コラム (9) 匂いと臭いのあいだ	『明倫アート』145号	2012・5
93	知られていない「きのう」と見えてこない「あす」のあいだで	京都市文化政策史研究会編『京都市文化政策史の歴史』 京都工芸繊維大学	2012
94	館長コラム (10) 白い夜の記憶	『明倫アート』149号	2012・9
95	館長コラム (11) フロックコートのオルフェと着物をもとったユリデイス	『明倫アート』151号	2012・11
96	2012年読書アンケート	『みすず』612号	2013・1
97	館長コラム (12) 省略と脱落	『明倫アート』154号	2013・2
98	館長コラム (13) ニュイ・ブランシュ——京都にて	『明倫アート』163号	2013・11
99	2013年読書アンケート	『みすず』623号	2014・1
100	高校の図書館	『図書』783号	2014・4
101	「継ぐこと・伝えること」と私	萩原麗子・横田盤編『継ぐこと・伝えること』 京都芸術センター	2014
102	2014年読書アンケート	『みすず』634号	2015・1